

米国経済・金融概況 (2023年5月)

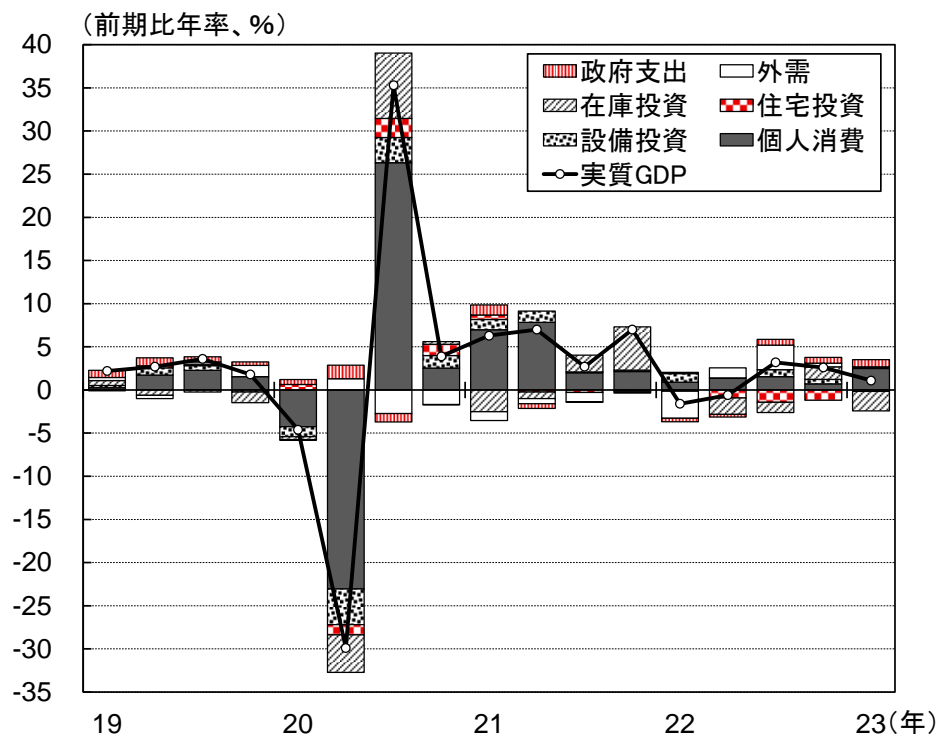
2023年5月17日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

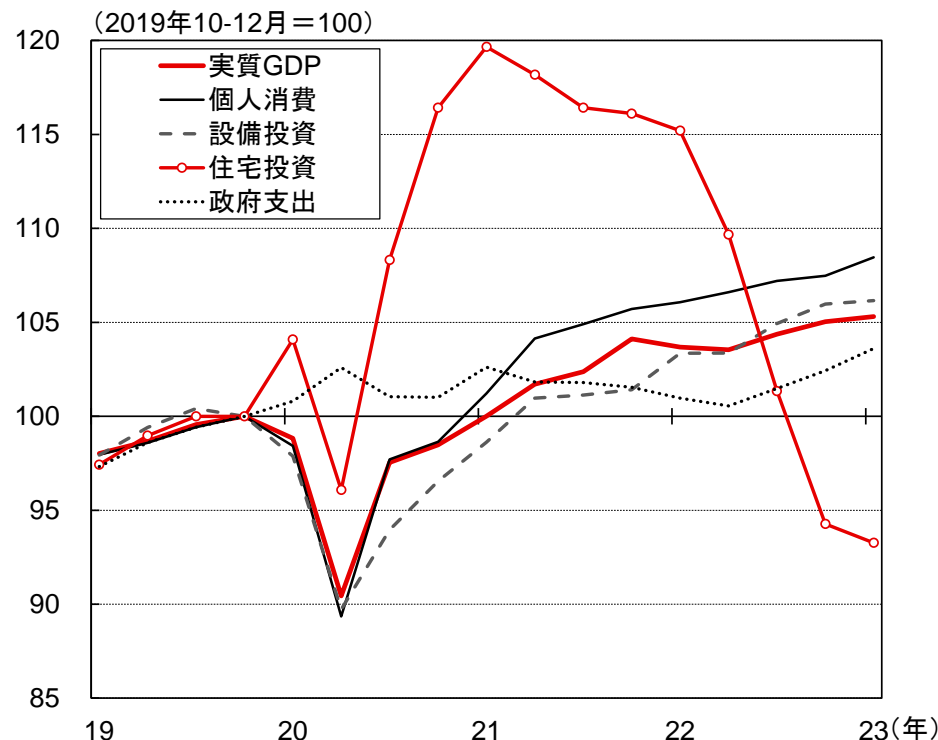
- 1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.1%と、前期(昨年10-12月期:同+2.6%)から減速。
- 需要項目別にみると、全体の約7割を占める個人消費は同+3.7%(前期:同+1.0%)と加速。内訳は、財が自動車・同部品の増加により同+6.5%、サービスは医療サービス、外食・宿泊が牽引し同+2.3%。また、政府支出は同+4.7%(前期:同+3.8%)と高めの伸びを記録。一方、設備投資は機械投資(同▲7.3%)の減少により同+0.7%(前期:同+4.0%)と減速。住宅投資は同▲4.2%と8四半期連続で減少したものの、減少幅は前期(同▲25.1%)から縮小。
- 在庫投資の実質GDP成長率に対する寄与度が同▲2.3%ポイント(前期:同+1.5%ポイント)と全体を大きく下押し。また、純輸出の寄与度は同+0.1%ポイント(前期:+0.4%ポイント)。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

需要項目別の水準の推移

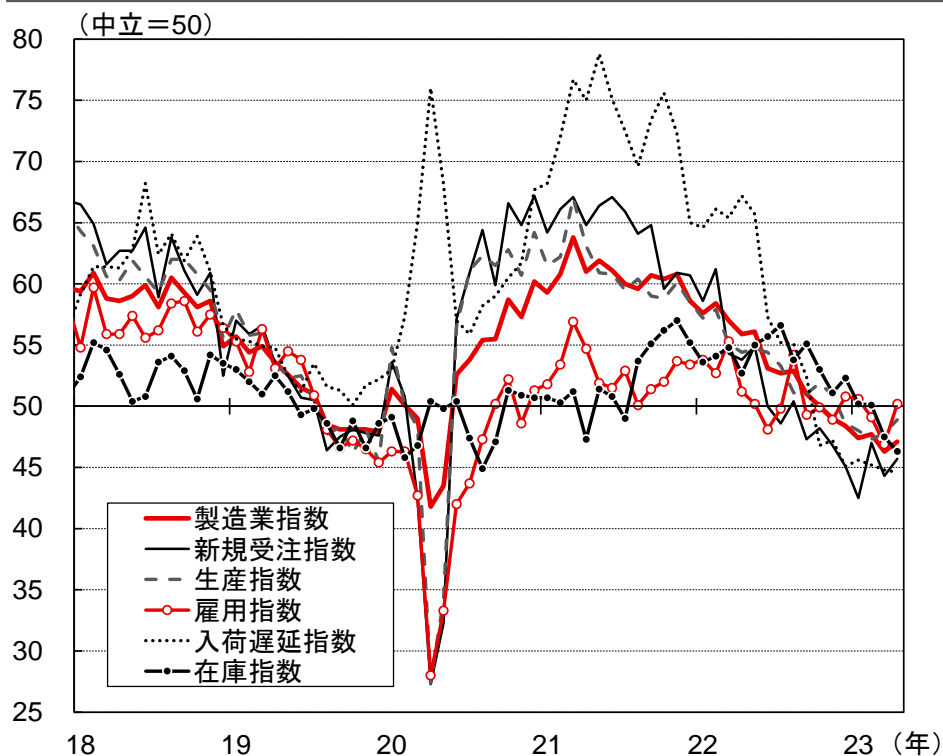


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

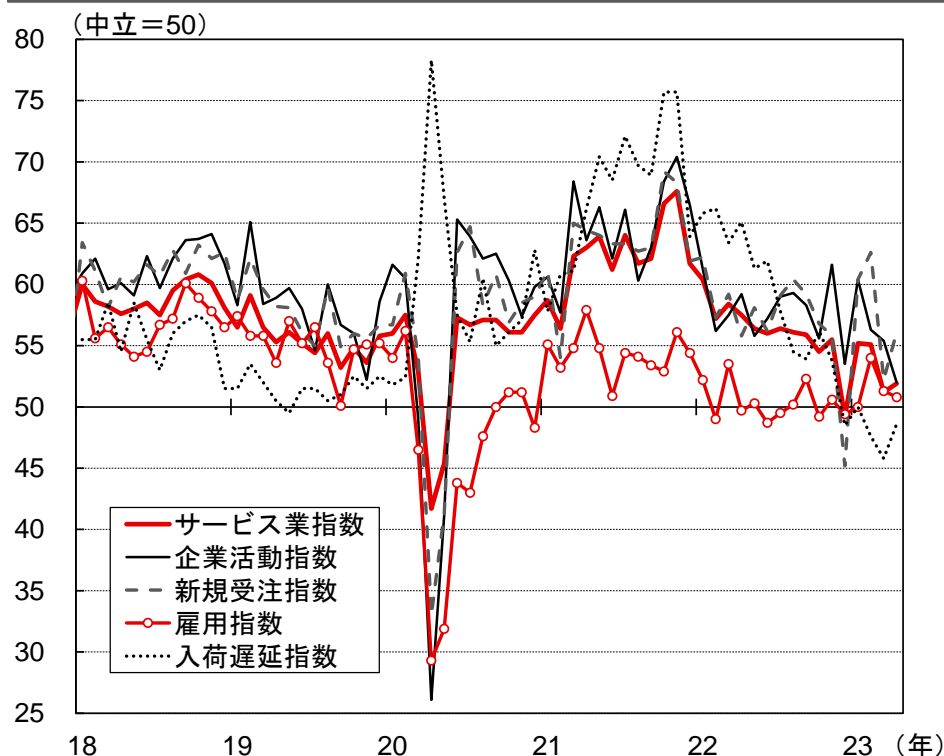
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、4月に47.1(前月比+0.8ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇したものの、6ヵ月連続の50割れ。指数の構成項目をみると、雇用指数(50.2、同+3.3ポイント)、新規受注指数(45.7、同+1.4ポイント)、生産指数(48.9、同+1.1ポイント)が上昇した一方、在庫指数(46.3、同▲1.2ポイント)、入荷遅延指数(44.6、同▲0.2ポイント)は低下。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、11産業が縮小、2産業が横這い(3月は6産業が拡大、12産業が縮小)。
- 4月のISMサービス業指数(総合指数)は51.9(前月比+0.7ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。指数の構成項目をみると、新規受注指数(56.1、同+3.9ポイント)、入荷遅延指数(48.6、同+2.8ポイント)は上昇した一方、企業活動指数(52.0、同▲3.4ポイント)、雇用指数(50.8、同▲0.5ポイント)は低下。産業別では全18産業のうち14産業が拡大、3産業が縮小、1産業が横這い(3月は13産業が拡大、5産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

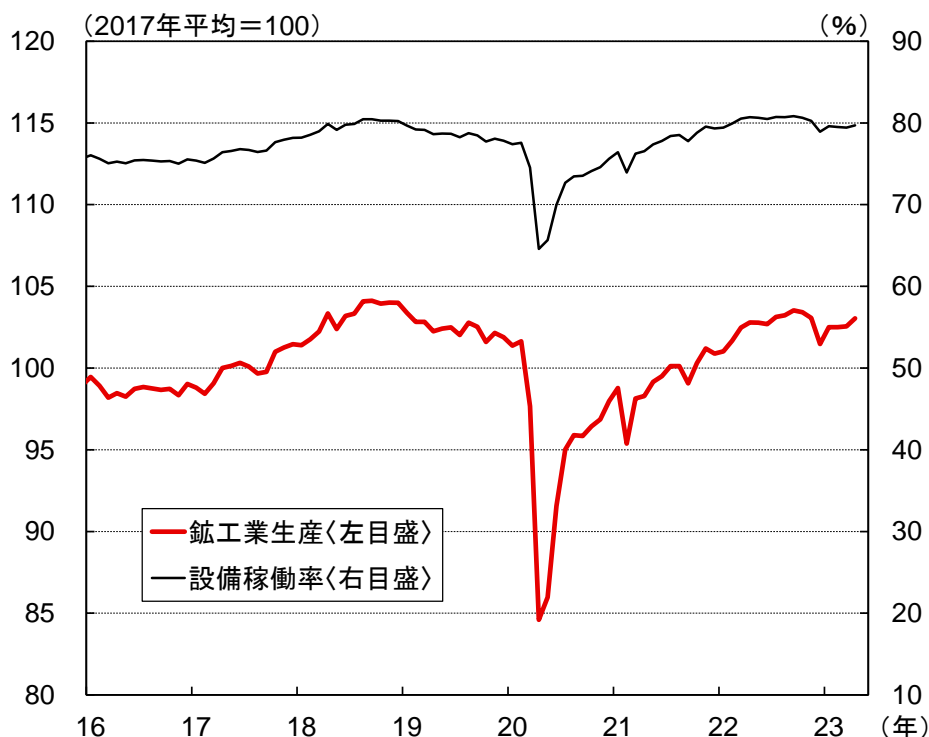


(資料)全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

- 4月の鉱工業生産は前月比+0.5%と4ヵ月連続で増加。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」(同+1.0%)は「自動車・同部品」(同+9.3%)が大幅に増加したほか、「鉱業」(同+0.6%)は3ヵ月ぶりに増加。一方、「公益事業(電力・ガス)」は同▲3.1%と2ヵ月ぶりに減少。4月の設備稼働率は79.7%と前月から0.3%ポイント上昇。
- 3月の耐久財受注は前月比+3.2%と3ヵ月ぶりに増加。内訳をみると、輸送用機器(同+9.0%)は民間航空機が大幅に増加したほか、コンピュータ・電子製品(同+2.1%)、電機・家電(同+0.8%)、金属製品(同+0.1%)など幅広い業種が増加。一方、設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同▲0.6%と2ヵ月連続で減少。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

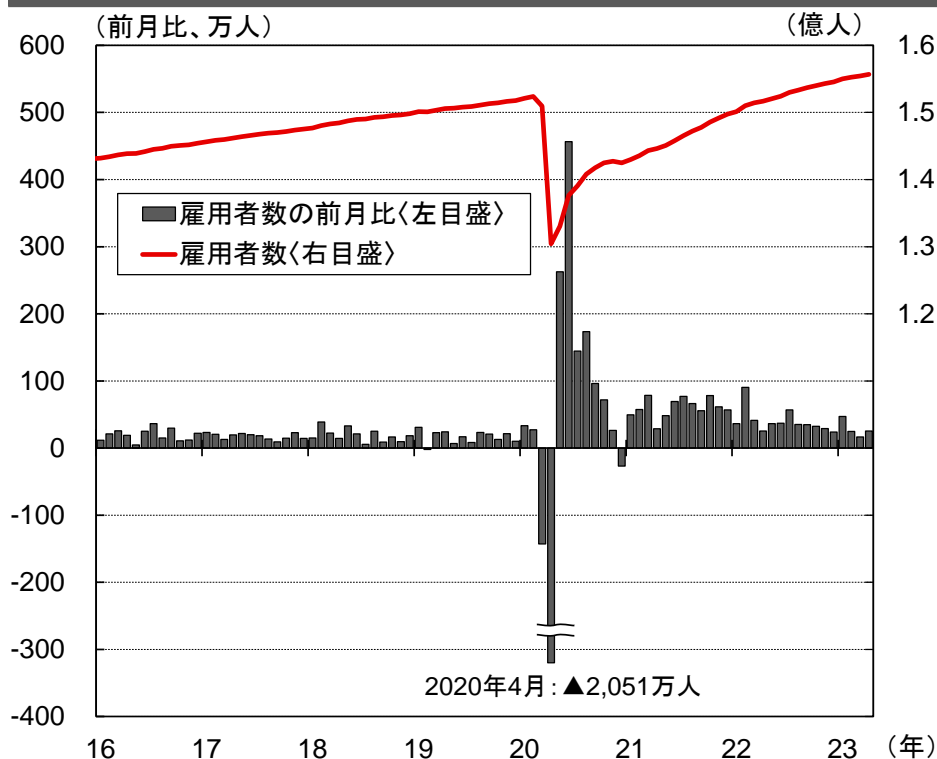


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

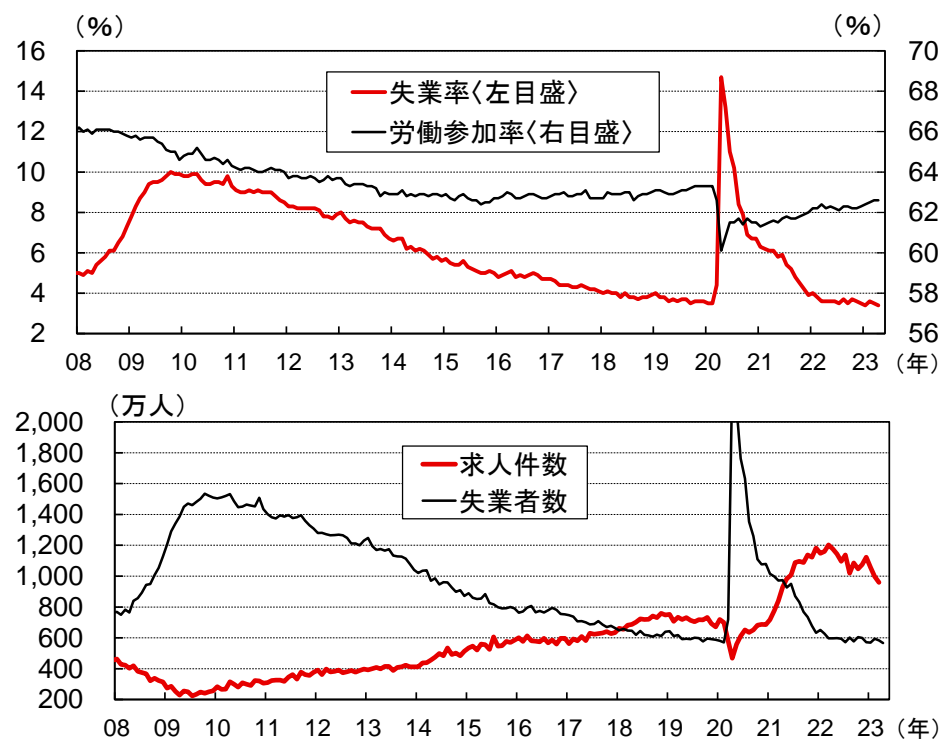
- 4月の非農業部門雇用者数は前月比+25.3万人と、3月(同+16.5万人、改定値)から増加幅が拡大。業種別にみると、「専門・ビジネスサービス」(同+4.3万人)、「医療」(同+4.0万人)、「レジャー・飲食・宿泊」(同+3.1万人)、「金融・不動産」(同+2.3万人)、「公務」(同+2.3万人)等が増加。
- 4月の失業率は3.4%と前月から0.1%ポイント低下し、失業者数は565.7万人(前月比▲18.2万人)と減少。労働参加率は62.6%と前月から横這い。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.4%(3月:同+4.3%)と伸びが加速。
- 3月の求人件数は959.0万件(前月比▲38.4万件)と3カ月連続で減少。求人件数は依然として高水準であるものの、労働需要のピークアウトが鮮明になっている。

非農業部門雇用者数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

失業率・労働参加率・求人件数・失業者数の推移

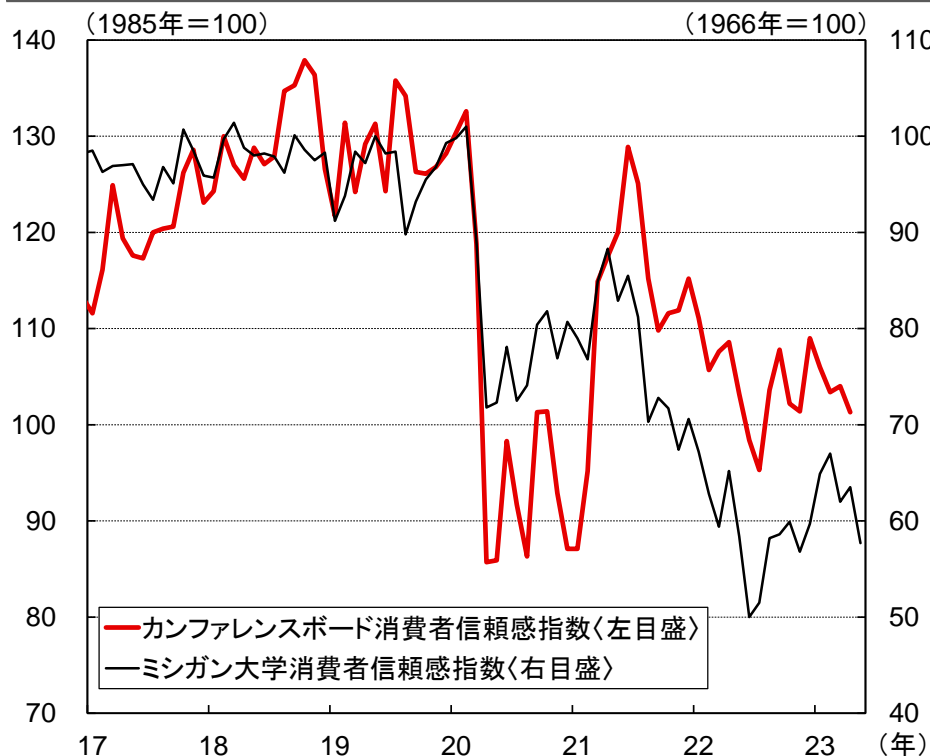


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

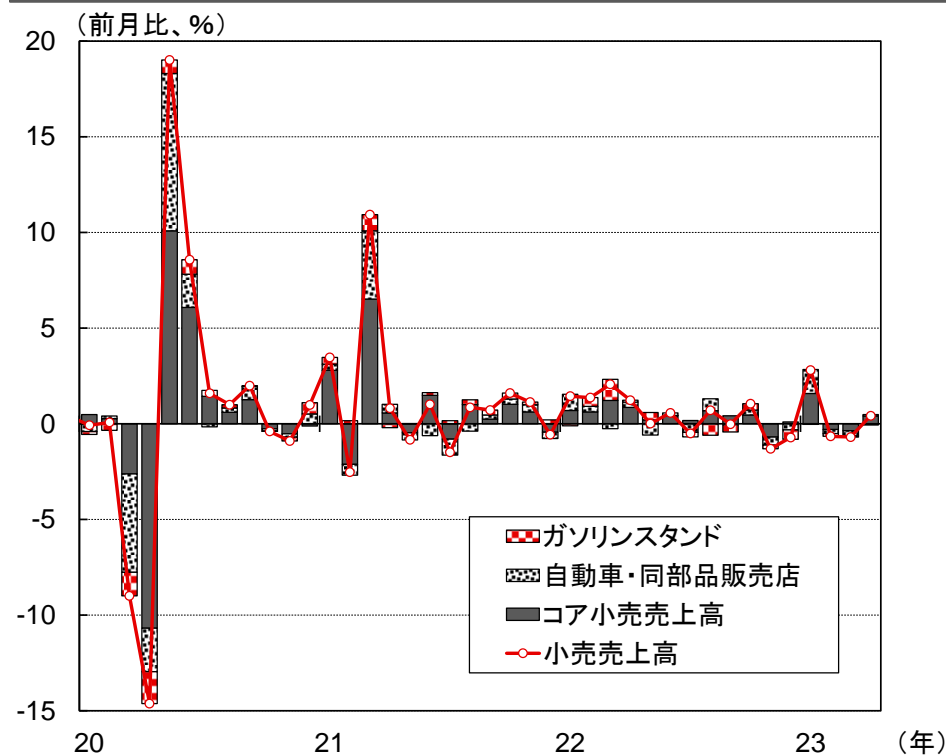
- 4月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は101.3(前月比▲2.7ポイント)と2カ月ぶりに低下。現状指数は151.1(同+2.2ポイント)と上昇した一方、期待指数は68.1(同▲5.9ポイント)と低下。また、5月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)も57.7(同▲5.8ポイント)と2カ月ぶりに低下し、うち現況指数は64.5(同▲3.7ポイント)、期待指数は53.4(同▲7.1ポイント)と低下。金融システム不安に伴う融資基準厳格化への懸念や政府の債務上限問題等により、先行きへの見方が慎重化したとみられる。
- 4月の小売売上高は前月比+0.4%と3カ月ぶりに増加(3月:同▲0.7%、改定値)。業種別にみると、「無店舗小売店」(同+1.2%)、「総合小売店」(同+0.9%)、「飲食店」(同+0.6%)、「自動車・部品販売店」(同+0.4%)等が増加した一方、「ガソリンスタンド」(同▲0.8%)、「電機・家電販売店」(同▲0.5%)、「衣服販売店」(同▲0.3%)等は減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.6%と3カ月ぶりに増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

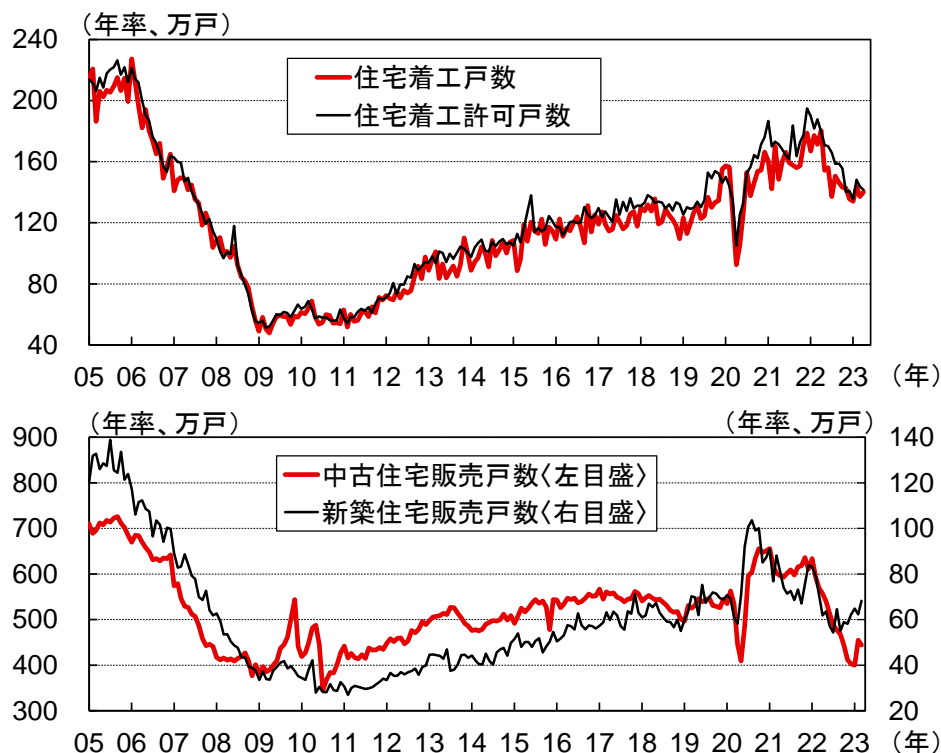


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

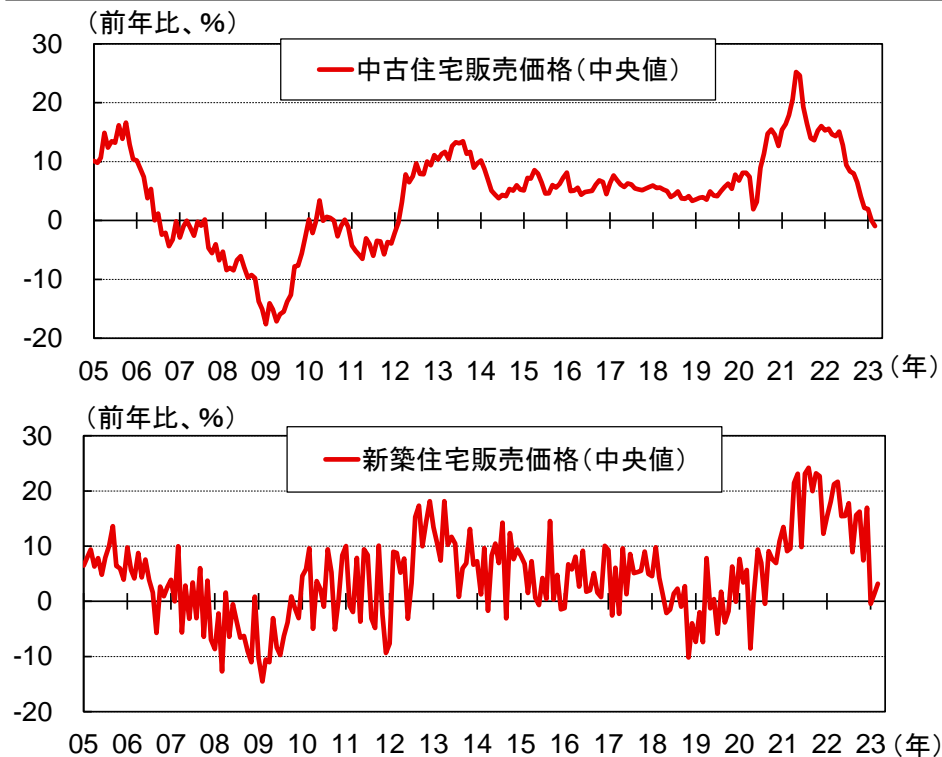
- 4月の住宅着工戸数は前月比+2.2%の年率140.1万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+1.6%、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同+3.2%とそれぞれ増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲1.5%の年率141.6万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。
- 3月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲2.4%の年率444.0万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少した一方、新築住宅は同+9.6%の年率68.3万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。在庫率(季節調整値)は中古住宅が2.8ヵ月、新築住宅が7.6ヵ月と中古住宅の在庫不足感が強い中、金利低下を受けて新築住宅販売が持ち直しの動き。ただし、金融システム不安や銀行貸出態度厳格化の影響が注目される。
- 3月の住宅販売価格は、中古住宅が375,700ドル(中央値)、前年比▲0.9%(2月:同▲0.0%)と2ヵ月連続で下落。一方、新築住宅は449,800ドル(中央値)、同+3.2%(2月:同+1.4%)と2ヵ月連続で上昇。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

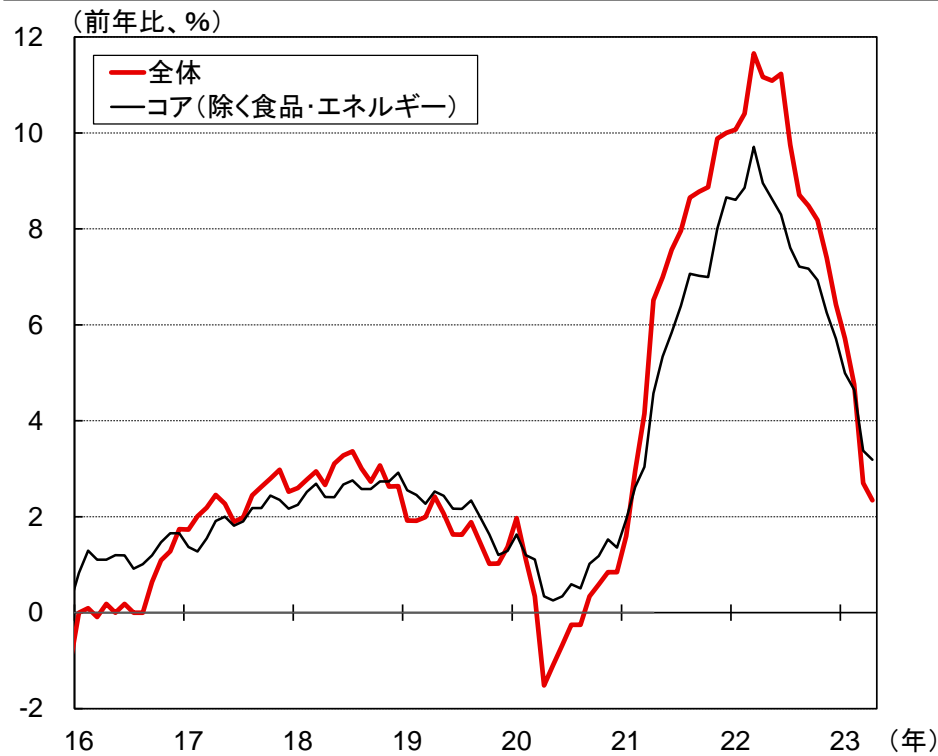
- 4月の消費者物価指数は前年比+4.9%と10ヵ月連続で伸びが鈍化(3月:同+5.0%)。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+5.5%と2ヵ月ぶりに伸びが鈍化(3月:同+5.6%)。コア指数のうちサービスは、「住居費」(3月:同+8.2%→4月:同+8.1%)が2021年2月以来初めて前月から鈍化し、航空運賃(同+17.7%→同▲0.9%)は2021年11月以来となるマイナス。一方、財は「中古車」(同▲11.2%→同▲6.6%)のマイナス幅が縮小。コア指数は前月比では+0.4%と前月(3月:+0.4%)から不変。
- 4月の生産者物価指数は前年比+2.3%と10ヵ月連続で伸びが鈍化(3月:同+2.7%)。内訳をみると、「財」は同+0.8%(3月:同+1.9%)と鈍化した一方、「サービス」は同+3.0%(3月:同+2.8%)と加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.2%(3月:同+3.4%)と13ヵ月連続で伸びが鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移

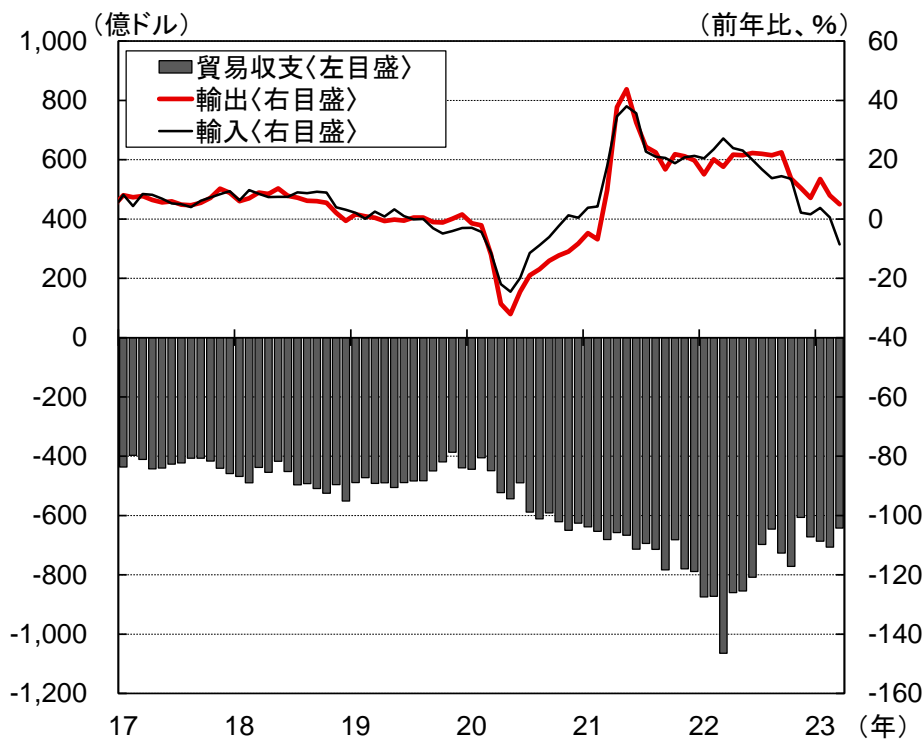


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

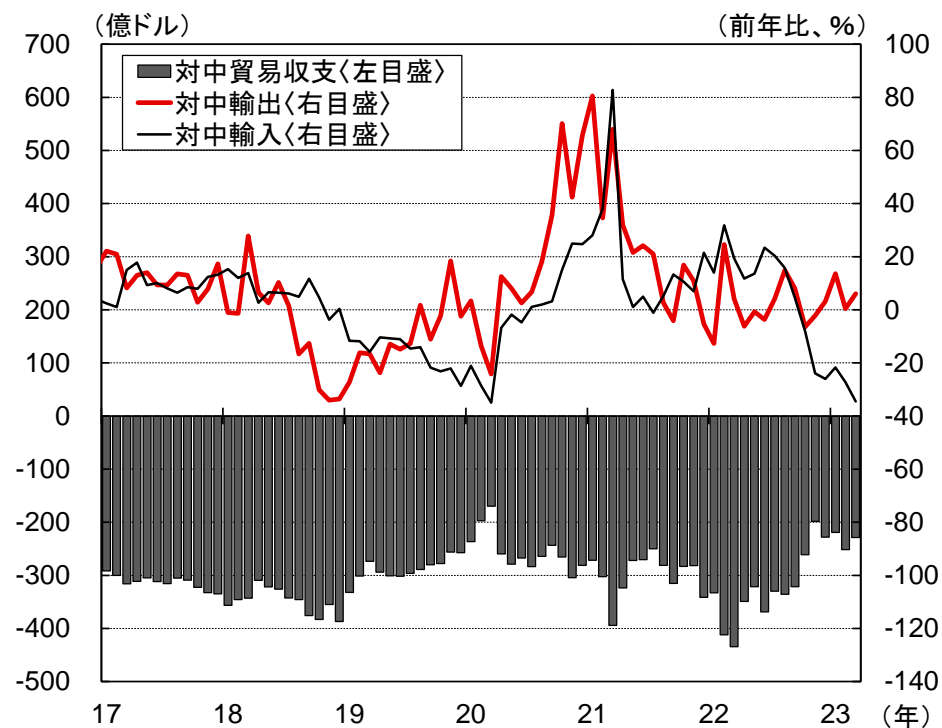
- 3月の貿易収支(財・サービス)は642億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲9.1%(同▲64億ドル)と縮小。輸出は同+2.1%と増加した一方、輸入は同▲0.3%と減少。前年比でみると輸出は+5.0%、輸入は▲8.6%。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国との貿易赤字は3月に229億ドルとなり、赤字幅は前月比▲8.9%(同▲23億ドル)と縮小。対中輸出(財)が同+10.2%と増加した一方、対中輸入(財)は同▲2.4%と減少。前年比でみると、対中輸出(財)は+6.0%、対中輸入(財)は▲34.6%。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
 (資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
 (資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、ファースト・リパブリック破綻による米地銀の信用不安再燃や景気後退懸念の高まりを受けて5月4日に3.3%近くまで低下。その後、堅調な雇用統計等を受けて上昇し、足元では3.5%台で推移。
- ダウ平均株価は、企業決算がIT大手を中心に予想を上回ったことから底堅く推移も、銀行の融資基準厳格化や政府の債務上限問題を巡る懸念により、足元では軟調に推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp